

# 当院 NICU での出生前訪問導入の効果と今後の検討について

キーワード: 出生前訪問・ファミリーケア・ハイリスクベビー

## 1 病棟 4 階東

山本奈美 谷岡みゆき 横山敬子 三木砂織 正村早苗 梶村光枝

### I. はじめに

当院では出産前の妊婦の情報は医師と助産師から得ており、NICU 看護師が初めて母親と関わるのは出生後の初回面会時である。面会時、家族より児に装着されている器機についての質問やアラーム音に過敏に反応するなどの場面に遭遇した。そこで今回、NICU 入院が予測される児の母親の不安軽減と母児愛着形成の促進、NICU 看護師との関係構築を目的として介入研究を行った。なお、本研究は継続中であり、症例数が少ないので経過報告とする。

### 用語の定義

「出生前訪問」とは「産前に NICU 看護師が妊婦の病室を訪問する事」とした。

### II. 研究方法

1. 期間:平成 18 年 4 月～平成 18 年 9 月末
2. 対象者:切迫早産、または帝王切開術予定で入院中の妊娠経過が安定している出生前訪問希望者。
3. 訪問者:NICU の勤務経験が 3 年目以上の看護師が訪問し、母親の希望があれば 2 回以上実施する。

#### 4. 方法

出生前訪問を行うにあたり、NICU での児の生活がイメージできるように、図・写真を用いたパンフレットを作成した。パンフレットの内容は「新生児医療の 3 原則(保温・栄養・感染防止)」「刺激を最小限にする(minimal handling)」「モニターで管理されている NICU での児の生活」を中心に構成した。また、詳細な項目については看護記録の記載と現在入院中である児の両親からの質問を参考にした。

評価方法として、出産 1 週間後にアンケートを実施した。アンケートは、属性、訪問方法、パンフレットによる説明項目の満足度と理解度、訪問時の妊婦からの質問、NICU 入室時の第一印象、訪問の満足度の 7 項目で構成した。

#### 5. 倫理的配慮

アンケートは無記名式で留置回収方法とした。アンケートの参加・不参加により出生前訪問に不利益が生じないことを説明した。

### III. 結果

#### 1. 属性

希望者 8 名に訪問を実施し、アンケートを配布した。回収率は 75% (6 名)であった。(表 1)

表1 妊婦の属性

妊娠歴と年齢(歳)	初回訪問時妊娠週数(訪問回数)	出生した児の在胎週数	分娩方法
初産婦 (29)	32週0日 (2)	37週0日	帝王切開
初産婦 (30)	39週0日 (1)	39週1日	帝王切開
初産婦 (21)	28週0日 (2)	33週1日	帝王切開
初産婦 (30)	33週1日 (1)	38週1日	経膈分娩
初産婦 (28)	32週6日 (1)	37週3日	帝王切開
経産婦 (30)	34週3日 (1)	36週3日	帝王切開

## 2. 訪問時期・時間・回数の妥当性

訪問時期は「適当」5名(83.3%)、「早い」1名(16.7%)であり、訪問時間・回数は共に「適当」6名(100%)であった。訪問から分娩までの期間が長い妊婦からは時期が「早い」との意見があった。

## 3. 訪問時のパンフレットによる説明項目の理解度

### 1) 面会方法

面会時間・回数、予約方法、両親以外の面会方法については、それぞれ「よく理解できた」1名(33.3%)、「理解できた」2名(66.7%)であった。両親以外の面会が制限される理由については「よく理解できた」「理解できた」「分からなかった」各1名(33.3%)であった。

### 2) モニターで管理されているNICUでの児の生活

モニター管理の理由、アラーム音の目的については「よく理解できた」2名(66.7%)、「理解できた」1名(33.3%)であった。モニターの各役割については、SP02モニターは「よく理解できた」1名(33.3%)、「理解できた」2名(66.7%)であり、心電図モニターと非観血的血圧モニターについては全員「理解できた」(100%)であった。(図1)

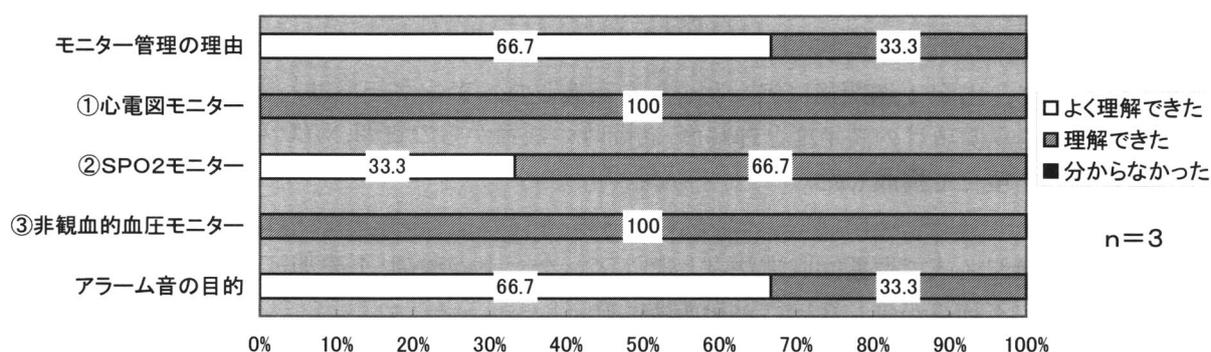


図1 モニターの役割についての理解度

### 3) 胃管について

胃管の目的と注入の必要性については「よく理解できた」1名(33.3%)「理解できた」2名(66.7%)であった。留置・挿入場所については「理解できた」2名(66.7%)、「分からなかった」1名(33.3%)であった。(図2)

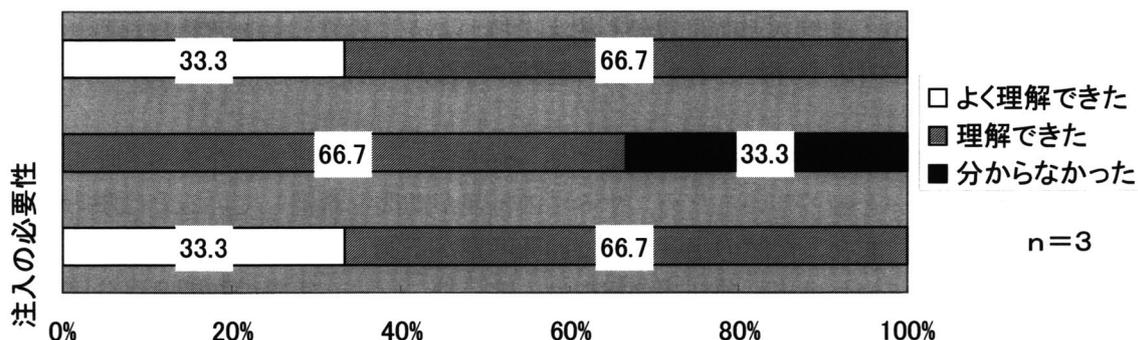


図2 胃管管理についての理解度

#### 4. 訪問時の妊婦からの質問内容

質問内容は①出生直後から退院までの児との関わり(16名), ②NICU入院中の育児用品(3名), ③退院に向けての育児・予後(2名), ④NICUの環境・器機(2名)の4項目に分類できた。(表2)

表2 妊婦からの質問内容(複数回答)

分類	質問内容
①入院中の児との関わり	「面会時期, 祖父母面会の希望」6名 「母乳をあげたい」5名 「退院時期」3名 「早期母子接触, 抱っこについて」2名
②入院中の育児用品	「入院中のオムツ・服・哺乳瓶の準備」3名
③退院後の育児・予後	「沐浴練習」 「予後への不安」各1名
④NICUの環境・器機	「保育器とは」 「児のNICU入室方法」各1名

#### 5. NICU入室時の第一印象

「顔見知りのスタッフがいて安心した」「NICUのイメージ通りで特に驚かなかった」「モニターのアラーム音に驚いた」が各3名であった。

#### 6. 今回の訪問の満足度

「満足」4人, 「やや満足」1人, 「普通」1人で8割の人が満足していた。「満足」「やや満足」の内容として, 「子供を安心して預けられると思った」「分かりやすい説明で満足した」「出産していざ入院となった時の不安が少なかったように思う」であった。以前当科で出産経験のあった妊婦からは「前回分らなかったことが理解できた。」という意見も挙げられた。一方, 満足度が「普通」の内容は「疑問や不安は解消されたが, 分からない事・知りたい事が分からず有意義な質問ができなかった」であった。

#### IV. 考察

アンケートより, 今回の訪問は妊婦が8割満足した結果が得られた。山崎は「実際に児を見たり触ったり出来ない母親は, イメージする材料も少ないため児に対する不安や恐れは膨れ上がる」<sup>1)</sup>と述べている。本研究で不安の軽減が得られた理由として,

訪問時の NICU の風景また児への装着が予測されるモニター類の図・写真活用が、母親の具体的な NICU イメージにつながり、初回入室時母親の心構えを持つことに役立ったと考えられる。また今回、妊婦の質問に個別に対応できたことも不安の軽減につながり出生前訪問の効果はあったと考える。

今回 6 ヶ月の訪問期間を設けたが 8 名の訪問であった原因として、母親はなるべくなら早期に出産にならないでほしいと願っているため、すべての母親が訪問を希望しているとは限らないためではないかと考える。また、突然の出産などで訪問時期が予測しにくい点も挙げられる。そのため妊娠経過が安定していれば出生前訪問の案内は入院早期に行い、実際の訪問日は分娩が予測されるようになってから行うなど、時期と回数についての検討が必要である。また、高木は「助産師と NICU 看護師は、母子は別々ではなく一つのユニットとして考えなければならない。産科助産師と NICU 看護師が、母親の不安を増強させることなく、母親の意思に寄り添い、一組一組の母子にとってよりよい方法を検討しながら進めていく必要がある。」<sup>2)</sup>と述べており、看護記録による情報収集及び今まで以上の助産師との情報交換の方法も検討していく必要がある。

訪問した NICU 看護師からは「以前と違い母親と面識があるため話しやすかった」「病棟以外で会ってもお互いに挨拶をするようになった」という意見が挙がり、訪問は看護師においても有意義なものとして示唆される。

堀内は「初回面会は両親への関わりのなかでも、両親の危機に効果的に対応できる力を引き出すための重要な始まりである。また両親が児に愛情を早期に抱けるように、適切な支援を重ねていく出発点でもある。」<sup>3)</sup>と述べており、母児愛着形成の促進を支援するうえで、母親と NICU 看護師との信頼関係の構築は重要であるといえる。出生前訪問は妊娠期から児の担当となる看護師と母親が関わりを持てる機会であるため、出生前訪問を行う看護師の妥当性についても今後は検討していく必要がある。

また訪問時の妊婦からの質問内容に、祖父母面会の希望があった。児と両親にとって、その他の家族の存在は精神的支えとなる。祖父母面会の効果はあると言われているため、当センターの検討課題と考える。

今後看研グループのみでなくチームでも協力し、病棟に定着させるため症例数を重ね、時期・方法などもさらに検討していく必要がある。

## VI. まとめ

1. NICU 入院が予測される児の母親の不安軽減を目的として、NICU 看護師による出生前訪問の介入研究を行った。
2. 母親は出生前訪問に 8 割が満足し、パンフレットによる NICU の風景、また児への装着が予測されるモニター類の図・写真活用と、妊婦の質問に個別に答えられたことが不安軽減につながった。
3. 出生前訪問の時期と回数については、妊娠週数と母親の状況により調整が必要である。
4. 出生前訪問の効果が得られたため、今後もさらに症例数を重ね、時期や方法を検討していく必要がある。
5. 今回の訪問で母親より、産前の NICU 見学と祖父母面会の希望が挙がったので今後の検討課題とする。

## 引用・参考文献

- 1) 山崎不二子: 母子関係形成を助けるケア, 小児看護, 24(4), p480-485, 2001.
- 2) 高木美代子: NICU と産科病棟が連携した母子への取り組み, 日本新生児看護学会, 15, 2005.

- 3) 堀内勁: NICU チームで取り組むファミリーケア, メディカ出版, p64-69, 2002.
- 4) 仁志田博司: 新生児学入門 第2版, 医学書院, p18-19, 2002.
- 5) 前久保直美: 早産が予想される妊婦の出生前訪問, Neonatal care, 15(6), p499-505, 2002.